

ビッグデータ活用 共同研究で覚書

オリコンサルグローバル
インドネシア大学ら

オリエンタルコンサルタンツグローバルとインドネシア大学工学部、Localization Mind（東京都千代田区、桐谷直毅代表取締役兼最高経営責任者（CEO））の3者が、ビッグデータ活用に関する共同研究の覚書（MOU）を交わした。技術や知見を持ち寄り、同国で長期的なモビリティ環境の改善を目指す。ビッグデータ活用技術の開発、関係機関との連携強化、都市・交通分野でのパイロットプロジェクトなどを共同推進する計画だ。

調印式後の集合写真（報道発表資料から）



西ジャワ州デポック市にあるインドネシア大で、3月に調印式を開いた。席上、オリエンタルコンサルタンツグローバルの津村優磨プランニング事業部交通計画部課長は、研究開発で今後の方向を説明した。同社は覚書に基づき、都市・交通分

野の技術検討や事業開発、社会実装を主導していく。3者の共同研究は、国土交通省の「令和7年度交通ビッグデータに係る本邦技術の活用検討業務」の一環として実施。調印式には、国交省の川崎俊正官房参事官（交通プロジェクト担当）も出席した。